



「生涯現役地域づくり環境整備事業」

地域にかかわり続け、地域で活躍し続けられる高年齢者等の仕事プラットフォーム

ミナミイズ人と経済活性化推進協議会
南伊豆町

生涯活躍のまちづくりへの取組

(静岡県) 南伊豆町

<基礎データ>

- ・人口：7,804人（2022年4月1日現在） 人口の自然減が著しく、年間120人～150人（約16～18%）程度減少している。
- ・人口比率：幼年少人口 7.89% 生産年齢人口 44.16% 高齢人口47.95%（2022年4月1日現在） 幼年少人口の減少が著しい。
- ・世帯数：3,901世帯（2022年4月1日現在） 平成24年頃から減少に転じ8年間で100世帯程度減少した。
- ・高齢化率：47.9%（静岡県内第5位） 後期高齢化率：25.3%（静岡県内第6位）（いずれも2022年4月1日現在） 高齢者数自体は減少傾向
- ・昼夜間人口比率：95.29%
- ・年間観光交流客数：897,451人



(説明文)

伊豆半島最南端にある「南伊豆町」は、本州にありながらもその成り立ちの特異性から、他の地域とは違った自然環境を有し、南国的な雰囲気と沖縄にも匹敵するようなきれいな海を有する自然豊かな観光地です。



(説明文)

町内には豊富な湯量を誇る下賀茂温泉、白砂青松の「弓ヶ浜」に隣接する弓ヶ浜温泉があり、年間を通して観光や温泉による保養に訪れる方も多い町です。



(説明文)

古くからの交流の歴史をベースとして、全国的にも珍しい自治体間連携による特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」を東京都杉並区とともに整備しました。

(説明文)

町内全域で、既存資源を活用しながら、全ての人や資源が継続的に活躍できる地域づくりを進めます。



(説明文)

地域に住む住民から、南伊豆町での暮らしを1対1で学び、体験できる「南伊豆暮らし図鑑」を新たな観光の取組として推進しています。

生涯活躍のまちづくりへの取組

(静岡県) 南伊豆町

地域の課題

地域で抱える課題について、「記載してください（網羅的ではなく、優先度が高い課題を記載）」

※ボックスが不足する場合は追加してご記入ください

1 人口の減少と少子高齢化

全国の地方で課題となっている人口減少及び少子高齢化は本町でも大きな課題となっており、これらは町が抱える様々な課題の要因ともなっています。

南伊豆町の人口は7,804人、高齢化率は47.9%です。（いずれも2022年4月現在）

平成27年度からの5年間で約8.2%、令和2年度以降では約1.8%と、減少幅が増加しています。

2 暮らしの利便性の低下

主要産業である観光業の低迷、利用者の減少による商店等の廃業など地域産業の衰退が深刻化しています。

一方で、人口減少や高齢化を要因として、地域の仕事の担い手不足も懸念されており、地域の暮らしを支えるインフラ産業にも影響が出始めています。

今後、一層の人口減少が進み、特に生産年齢層が減少していくことから、医療や福祉分野での働き手不足が一層深刻化するだけでなく、公共交通や日常の買い物等に影響を生じるようなサービスの低下が懸念されています。

3 空き家の増加や山林、農地の荒廃

町内34の集落の中には、人口減少や若者の流出により、空き家が住家の数を上回る状況となっている集落も出始めており、その中には倒壊の危険性を有する空き家も見受けられます。

平成27年度に実施した町内の空き家調査の結果では、空き家が358件と町内の10軒に1軒程度が空き家となっており、うち1年以上利用されていない空き家は233件であるにも関わらず、賃貸意向のある物件は18件にとどまっています。

増加する空き家の対策、人の手が入らず荒廃する山林や農地への対応は喫緊の課題となっています。

現在実施している施策・事業

左記の課題を解決するために現在実施している施策・事業を記載してください。※既に「生涯活躍のまち」に取り組んでいる場合は、それを構成する施策・事業を記載

人口減少及び少子高齢化の主な要因は、年間の死者数に対して出生者数が極端に少ないこと、特に若者を中心とした人口の流出が多いことにあります。

本町の生涯活躍のまち事業では、高齢者の生きがい創出と健康増進の取組による生涯現役で活躍できる「健幸長寿」、進学等で外に出た地域の子供達が、やがては戻ってこられるような雇用を生む産業の構築を目指して取り組んでいるとともに、サテライトオフィス誘致などによる新たな雇用の創出にも取り組んでいる。

移住定住の取組のほか、関係人口拡大の取組も並行して進めることで、定住人口が減少しても地域機能を維持していくことができる仕組み作りを進めています。

平成29年度からサテライトオフィス誘致事業に本格的に取り組み始め、令和元年度からはワーケーション利用者を拡大するための取組も進めています。

これらは、単に企業を誘致するという考え方だけではなく、進出企業等が地域内で活躍することや地域事業者等とのコラボレーションにより、地域の暮らしをともに支えていく仕組み作りと関係人口の拡大にもつなげていくための事業です。

空き家バンク制度や空き家バンク登録物件のリフォーム補助、同制度に付随した農地付き空き家への対応のほか、町が直接空き家を借上げ、利用希望者の一定期間貸し与えるお試し移住制度の活用など、空き家を活用するための施策に取り組んでいます。

令和4年度からは集落を指定して空き家活用と移住促進、関係人口拡大のためのモデル事業に取り組み、他集落への横展開を図っていけるよう事業計画を策定しています。

また、荒廃農地対策の一環として、地域おこし協力隊を活用した新たな産品開発としての果樹栽培など地域内の遊休資産の活用、安心安全な住環境の維持に向けた取組を継続しています。

生涯活躍のまちづくりへの取組

(静岡県) 南伊豆町

目指す将来像

南伊豆町の生涯活躍のまちのコンセプトは「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」

人口の減少が著しい本町では、これ以上の人口減少を抑制していくとともに、本町に住所を有せずとも積極的に地域にかかわり続ける関係人口を拡大することやデジタル技術を積極的に活用することで、人口が減少しても一定の利便性を保ち、人々が安心して暮らしていくことのできる地域づくりを進めるとともに、本町に関わる人々が生涯にわたって健康で活躍し続けることのできる幸福度の高い地域としていくことを目指します。

そのためには、本町に関わる人々がそれぞれの立場で学びあい、教えあうこと、それぞれの立場や人格を認め、関係人口を含む地域全体で支えあいながら地域総出でまちづくりを進めていくことで、将来にわたって人々の暮らしや営みを継続していくことのできる地域づくりを目指しています。

今後実現したい事業

■空き家等の活用による住まいづくり

町内には約350件棟の空き家があります。町内の世帯数が約3,900世帯なので、町内にある建物の約8%が空き家となっている状況です。また、高齢化の進展、特に高齢者世帯の増加から、今後この空き家はさらに増加していく見込みであるとともに、活用されないことによる老朽化、倒壊等の危険性を有する空き家も急激に増加していく見込みです。

本町は年間200件を超える移住相談があるものの、住居の問題や雇用の少なさなどから実際の移住に結びつく件数は10分の1程度です。近年仕事に関してはテレワークの普及などで移住への追い風となりつつありますが、住居の確保を進める必要は大きな課題であり、町内の空き家の有効活用を推進し、移住希望者に住居等を提供できる環境を整備していくこととしています。

■生涯にわたり健康で活躍できる環境づくり

本町は比較的健康寿命が長く、一次産業や三次産業を中心に、高齢になっても仕事を続けている人が多い一方で、40代から50代では健康に対する意識が希薄で、今後においては健康寿命が短くなり、それに伴う医療負担、介護負担の増加、労働力の低下などが懸念されています。

現役世代の健康意識向上及び健康増進への取組を進めるため、現役世代の方々（特に男性）が参加しやすい健康増進事業の実施、子どものころから健康に対する意識の向上を図る取組を進めるとともに、自らの健康を維持しながら、地域社会と積極的にかかわり続け、いつまでも現役で活躍できる地域社会の構築を進めていく必要があります、これらを具体的に進めていくための事業に取組んでいく必要があります。

うち、官民連携で取り組みたい事業

■空き家活用、荒廃した山林や農地の活用への取組

空き家のオーナーから町が直接借り上げる物件について、残置物の片づけやリノベーションなど人手を必要とする作業などについて、SDGsの観点から企業の研修やワーケーションの取り組みとして社員の参加を推進するなど、人材面での連携、ワーケーション等交流人口拡大にもつながる活動に積極的に取り組んでいただき、直接的な人材支援のみならず、間接的な人材支援、地域経済への貢献にもつながる支援や連携を進めていきたい。

また、荒廃山林の整備、里山再生、荒廃農地の再生事業についても多く人手が必要となる。森林伐採、農地開墾から、切り出した木材の活用、農地で生産された物の販売や加工、商品PRも含め、初期段階から地域住民も含めた官民連携で取り組みを進めていきたい。

■地域の課題解決にビジネスとして取り組める環境づくり

地域の有する課題は多岐にわたっており、多くの人に共通する課題から一定の層で深刻化している課題とその対象も様々です。人口が集中する都市部では地域の課題がビジネスに直結し、ビジネスの力で解決されるものも多くありますが、人口の少ない地方では、ほとんどの課題解決がビジネスになじまないことから解決の道筋を作るには多くの公費が必要となったり、そもそも道筋を作れなかったりしています。

過疎地の課題には多くの共通点があり、手法によってはビジネスに結びつくものもあるはずですので、課題解決につながるビジネスモデルの検討、実証からビジネスへの展開まで南伊豆町をフィールドとして取り組むパートナー企業を求めています。

生涯活躍のまちづくりへの取組

(静岡県) 南伊豆町

目指す将来像【全体像】



「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

- 就労（雇用）の場が少ないという課題
- 就業者が少ないという課題
- 地域の担い手がいなくなるという課題
- 繁閑の差が大きいという課題
- 求人と求職のミスマッチという課題

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

年齢3区分人口の推移

(国勢調査)

区分 年次	総数		幼少年人口 (0歳～14歳)		生産年齢人口 (15歳～64歳)		老 齢 人 口 (65歳以上)	
	総 数	うち男	総 数	うち男	総 数	うち男	総 数	うち男
昭和 40 年	13,013	6,179	3,195	1,633	8,042	3,780	1,776	766
45	12,219	5,779	2,372	1,236	7,942	3,737	1,903	806
50	12,017	5,795	2,223	1,182	7,727	3,737	2,067	876
55	11,722	5,666	2,200	1,184	7,310	3,568	2,212	914
60	11,573	5,593	2,011	1,087	7,120	3,501	2,442	1,005
平成 2 年	11,200	5,397	1,604	844	6,873	3,423	2,723	1,130
7	10,725	5,144	1,375	723	6,250	3,127	3,100	1,294
12	10,304	4,909	1,169	590	5,824	2,958	3,311	1,361
17	10,003	4,791	1,089	564	5,498	2,787	3,416	1,440
22	9,516	4,543	999	503	4,952	2,536	3,565	1,504
27	8,524	4,054	824	419	3,956	1,990	3,744	1,645
令和 2 年	7,877	3,722	659	340	3,339	1,721	3,873	1,689

令和2年には年齢不詳を含む

資料：企画課

年齢3区分人口の推移

(国勢調査)

区分 年次	(0～14歳)		(15～64歳)		(65歳以上)	
	総数	うち男	総数	うち男	総数	うち男
昭和40年	3,195	1,633	8,042	3,780	1,776	766
昭和45年	2,372	1,236	7,942	3,737	1,903	806
昭和50年	2,223	1,182	7,727	3,737	2,067	876
昭和55年	2,200	1,184	7,310	3,568	2,212	914
昭和60年	2,011	1,087	7,120	3,501	2,442	1,005
平成2年	1,604	844	6,873	3,423	2,723	1,130
平成7年	1,375	723	6,250	3,127	3,100	1,294
平成12年	1,169	590	5,824	2,958	3,311	1,361
平成17年	1,089	564	5,498	2,787	3,416	1,440
平成22年	999	503	4,952	2,536	3,565	1,504
平成27年	824	419	3,956	1,990	3,744	1,645
令和2年	659	340	3,339	1,721	3,873	1,689

産業別就業人口（15歳以上）

(国勢調査)

産 業 別	就業人口（人）		構成比（％）		平成27年(国勢調査)に対する 令和2年国勢調査増減	
	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	就業人口 (人)	構成比 (％)
第一次産業	215	214	6.29	5.91	1	0.38
農 業	36	33	1.05	0.91	3	0.14
林 業	96	97	2.81	2.68	△ 1	0.13
漁 業	347	344	10.15	9.50	3	0.65
第二次産業	0	1	0.00	0.03	△ 1	△ 0.03
鉱 業	308	334	9.01	9.23	△ 26	△ 0.22
建設業	132	133	3.86	3.67	△ 1	0.19
製造業	440	468	12.87	12.93	△ 28	△ 0.06
第三次産業	19	13	0.56	0.36	6	0.20
電気・ガス・水道業	106	98	3.10	2.71	8	0.39
運輸・通信業	462	514	13.51	14.20	△ 52	△ 0.69
卸・小売業	39	50	1.14	1.38	△ 11	△ 0.24
金融・保険業	45	37	1.32	1.02	8	0.30
不動産業	1,803	1,939	52.72	53.57	△ 136	△ 0.85
サービス業	141	143	4.12	3.95	△ 2	0.17
公 務	2,615	2,794	76.46	77.19	△ 179	△ 0.73
分類不能の産業	18	14	0.53	0.38	4	0.15
総計	3,420	3,620	100.00	100.00	△ 200	-

資料：企画課

事業所

○事業所数等の推移

(事業所・企業統計) (21年から経済センサス-基礎調査)

区分	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成21年	平成26年	令和元年
事業所数(軒)	1,096	994	902	841	805	661	684
従業員数(人)	4,721	4,583	4,054	3,735	3,943	3,157	-

※令和元年より従業員数の項目なし 資料：企画課

○産業分類別新規把握事業所数及び従業員数

(令和元年経済センサス-基礎調査)

産業別	総数	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸業	卸売業・小売業	不動産業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学芸・保健業	医療・福祉	サービス業
事業所数(軒)	63	1	3	2	1	1	2	5	17	10	2	7	12
従業員数(人)	230	2	12	3	3	13	13	13	47	29	10	45	40

資料：企画課

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

問17-2: 仕事の環境

	良い	まあ良い	あまりよくない	わからない	回答しない
回答数	17	51	58	25	15
割合	10%	31%	35%	15%	9%



理由

- ・[まあ良い] 選択肢は少ない
- ・[わからない] 仕事をしていない（年金生活者）
- ・[回答しない] 年金生活なので
- ・[あまりよくない] 景気があまりよくないため（自営業だから）
- ・[わからない] 町外で仕事をしているので、町内ではわからない
- ・[あまりよくない] 選択肢が少なく、また強い業職もない
- ・[あまりよくない] 限られた職種のみである
- ・[回答しない] 仕事をしていない
- ・[わからない] 仕事をしていない
- ・[わからない] 仕事はしていません
- ・[わからない] 自分は仕事をしていない
- ・[回答しない] 「環境」？
- ・[あまりよくない] 老人が多く、仕事がない
- ・[あまりよくない] 企業がなく、働く場所がない

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

- ・[回答しない] 無職
- ・[あまりよくない] 働ける場が少なく、下田方面へ勤務。近くに勤務場所があれば理想
- ・[あまりよくない] 仕事先が少ない
- ・[あまりよくない] 町の事や区の事が分からない
- ・[まあ良い] 公務員のため
- ・[わからない] 仕事をしていないのでわからない
- ・[まあ良い] 若者が戻り希望をもって働ける職場、企業の進出を望みます
- ・[あまりよくない] 高齢化して外出できない人や移住者の人とのつながりがない
- ・[あまりよくない] 産業がないからしょうがない
- ・[あまりよくない] 働く場がない
- ・[まあ良い] 近場にあるので
- ・[あまりよくない] 職場が少ない
- ・[あまりよくない] 仕事が少ない

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

問17-6: 交通機関

	良い	まあ良い	あまりよくない	わからない	回答しない
回答数	1	26	124	14	2
割合	1%	16%	74%	8%	1%



理由

- ・[あまりよくない] 自動車がないと移動が大変
- ・[あまりよくない] バスの本数の少なさ、値段の高さ、タクシーの少なさ、自家用車なしでは生活できない
- ・[あまりよくない] 高齢化率の高い街として、今からでも町営バス等の運行を考えなければならない。
- ・[あまりよくない] バスの本数が少ない。料金が高い。
- ・[あまりよくない] 今は車を使用しているが、バスなど料金が高い
- ・[わからない] 自転車運転なので
- ・[あまりよくない] 不便である
- ・[あまりよくない] バスしかない
- ・[あまりよくない] バスもタクシーも早めになくなる。下田駅まで遠い
- ・[わからない] バスは少ないが、使っていないので
- ・[あまりよくない] バス本数少なく、電車は下田までだから
- ・[あまりよくない] 選択肢がない
- ・[あまりよくない] 大型バスは必要ないのでは？
- ・[あまりよくない] 交通手段が車しかない（バス代高い、数ない）
- ・[あまりよくない] 運転しなくなったらバス不便である

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

- ・[わからない] 車では問題なし
- ・[あまりよくない] 交通機関があまりなく、不便
- ・[あまりよくない] 利用する人が少ない
- ・[あまりよくない] 自家用車がないと不便
- ・[あまりよくない] 公共の交通がない
- ・[あまりよくない] バスの本数が少ない。バス停から離れている
- ・[わからない] 利用していない
- ・[まあ良い] バス利用者が少なく、ほとんど朝夕の学生のみ。自家用車使用が中心なので現状でいいと思う。
- ・[あまりよくない] バスの本数が少なく、運賃が高い
- ・[わからない] 自分で運動するので
- ・[あまりよくない] バス・タクシー少ない
- ・[あまりよくない] バスの便が少ないような...
- ・[あまりよくない] バスの本数が少ない。電車がいない
- ・[あまりよくない] 電車の本数が少ない。運賃が高い
- ・[まあ良い] 必要時間帯のバスは運行を望みます
- ・[あまりよくない] バスの本数が少なすぎる
- ・[あまりよくない] バスで下田まで出かけると運賃が高く（バス）時間もかかる
- ・[わからない] バスは廃止
- ・[わからない] 外出といえば仕事くらいだから
- ・[あまりよくない] 自家用車がなければ自由に外出する手段が少ない
- ・[あまりよくない] 自分で移動できる方がいいが、バスの回数が少ない
- ・[あまりよくない] 下賀茂以外だと不便
- ・[あまりよくない] バスの利便性がない
- ・[あまりよくない] バスの回数が少ない

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

問17-8: 自然環境

	良い	まあ良い	あまりよくない	わからない	回答しない
回答数	78	70	12	4	1
割合	47%	42%	7%	2%	1%



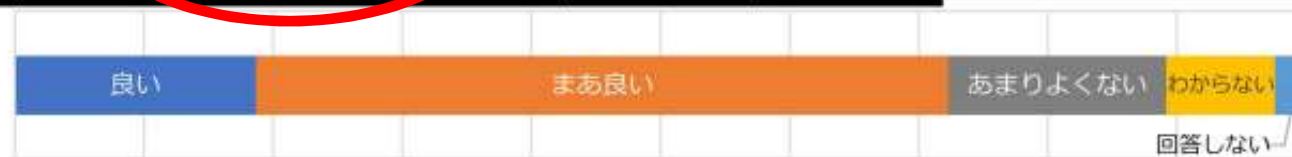
理由

- ・[あまりよくない] あまりではなく、全くよくない。もっと自然を大事にする行政を行うべき。
- ・[良い] 自然が素晴らしいです。
- ・[良い] 春夏秋冬何かしら楽しめます。
- ・[あまりよくない] 猪や猿などの被害が多い
- ・[良い] 川・畑・森・海全部ある
- ・[良い] 良い。自然といえば南伊豆
- ・[まあ良い] 自然も放置ではなく、管理が必要
- ・[良い] 美しい海と山
- ・[まあ良い] 緑が多い、海がきれい
- ・[良い] 海、山がある
- ・[あまりよくない] 荒れ地が多い。山も同様
- ・[まあ良い] 海、山、周りの風景が良い
- ・[良い] ウォーキングに適している

「生涯現役地域づくり環境整備事業」取組の背景

問17-9: 人のかかわり

	良い	まあ良い	あまりよくない	わからない	回答しない
回答数	31	89	28	14	4
割合	19%	54%	17%	8%	2%



理由

- ・[まあ良い] 他町よりは人と人との結びつきはあるように感じる。
- ・[まあ良い] あいさつする程度です。（そういう環境がいいので）
- ・[良い] 皆親切で人柄もよい
- ・[良い] 温かい人柄の人が多い
- ・[あまりよくない] 近所付き合いがない
- ・[良い] 顔合わせであいさつは普通
- ・[まあ良い] 関わりたくない人もいるが、それはどこにいても変わらない
- ・[まあ良い] ご近所以外はよそ者扱いかも
- ・[良い] 悪い人は努力不足
- ・[まあ良い] 助け合って生活している感じ
- ・[良い] 親切にしてもらっている
- ・[回答しない] 地域（せまいこの地域での）人のかかわりは上手にできているのでは...
- ・[まあ良い] 近所付き合いが良い
- ・[あまりよくない] 転入者の心得対策
- ・[まあ良い] 近くに住んでいても合うことが少ないが、コロナ禍前は行事もあり組の集まりも多くあった

事業の概要

2 重点業種における高年齢者の雇用機会の確保における課題

- ▶ 地域計画に盛り込む予定の計画区域における重点業種とその設定理由
 - ①地域の主要産業である「観光・サービス業」
 - ②担い手の減少が著しい「農林水産業」
 - ③人材が不足している「子育て支援・福祉サービス」
 - ④地域課題解決や新たな産業創出につながる「起業・創業支援」
- ▶ 重点業種における高年齢者等の雇用動向と今後の見通し
 - ①観光・サービス業 高年齢者の短時間形態での雇用が増加している。
今後は雇用全般において高年齢者雇用が増加する見込み。
 - ②農林水産業 民間事業者の取組や町の取組により、仕事や雇用が増加していく見込み。
 - ③子育て支援・福祉サービス 慢性的に人材が不足しており、今後においても雇用需要は高く推移する見込み。
 - ④起業・創業支援 関係人口の拡大、副業・兼業者の増加等により、連携による起業や起業への支援要望が高まっている。

事業の概要

2 重点業種における高年齢者の雇用機会の確保における課題

- ▶ 重点業種における高年齢者等の雇用・就業機会の確保を図る上での課題（人材確保・人材育成等）と対策方針
 - ①観光・サービス業 仕事環境や新型コロナウイルス感染症の影響など、比較的敬遠されがちであることから、マッチングや仕事体験などの支援を実施する。
 - ②農林水産業 担い手確保が課題となることから、新規就業者等に対する多面的な支援、相談体制の確立を図る。
 - ③子育て支援・福祉サービス 慢性的な人材が続いていることから、人材育成や研修体制の構築を図る。
 - ④起業・創業支援 潜在的な需要が高まっており、ノウハウの提供、連携構築のためのコーディネートを推進する。

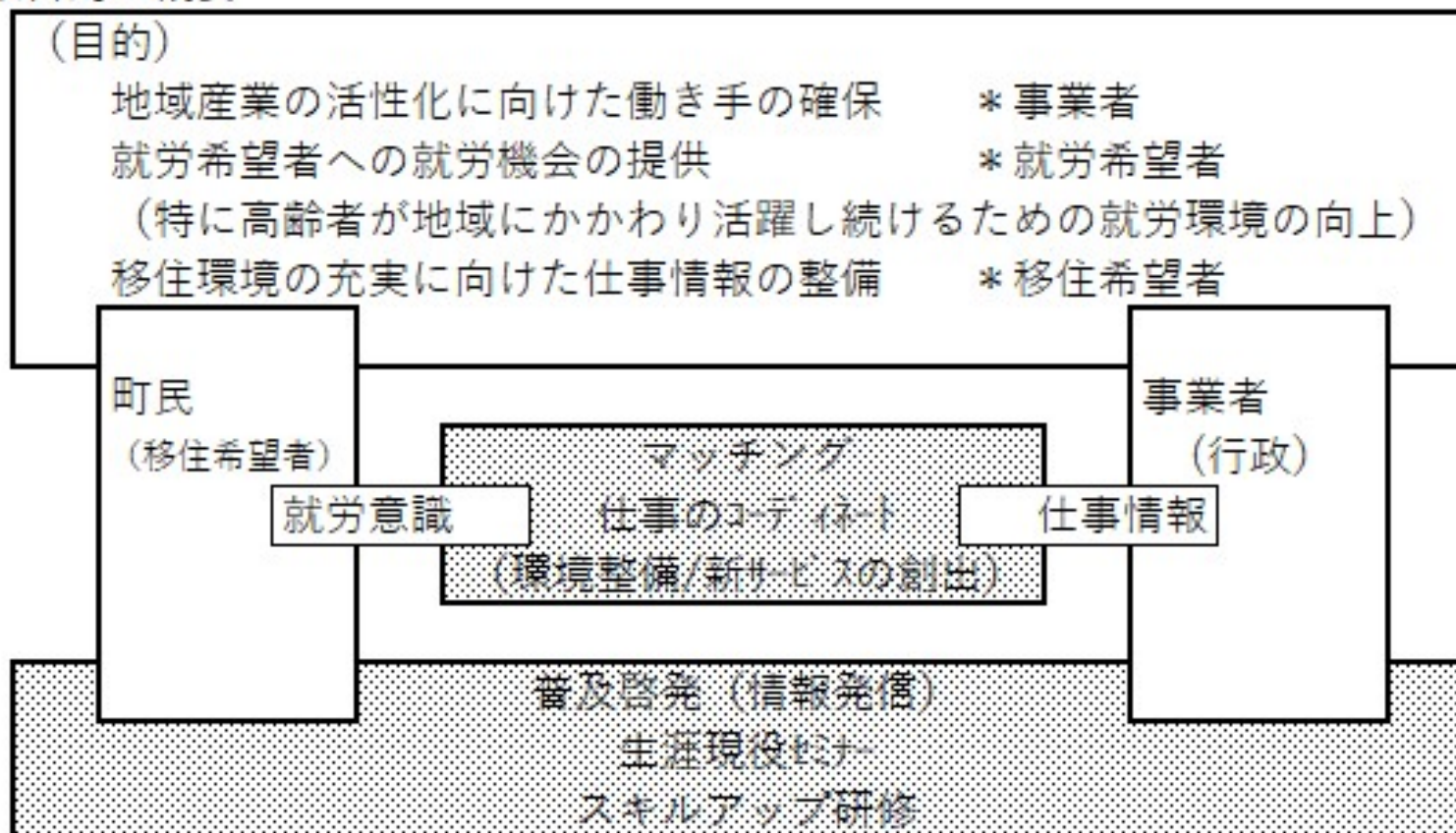
事業の概要

3 支援メニューの内容

- ▶ 環境整備事業にて実施しようとする事業
- ▶ ① 生涯現役で活躍し続けるための普及・啓発を図るための「生涯現役で活躍し続けるための普及啓発事業」
- ▶ ② 事業者や求職者からの相談を直接受け付ける窓口であるとともに、情報発信、マッチング機能を持った「プラットフォーム事業」
- ▶ ③ 社会参画に必要なスキルの習得、仕事に必要な能力の向上を図るためのセミナー、講演会等による意識啓発のための「生涯現役セミナー事業」
- ▶ ④ 個々の希望やスキルに応じた仕事に就けるよう、また、協議会自体の収益事業を実施するための「人材バンク・人材育成事業」
- ▶ ⑤ 生涯地域社会にかかわり続け、それぞれの立場で活躍し続けることができるような地域社会を構築する「誰もが地域にかかわり続け、地域で活躍し続けられるための事業」

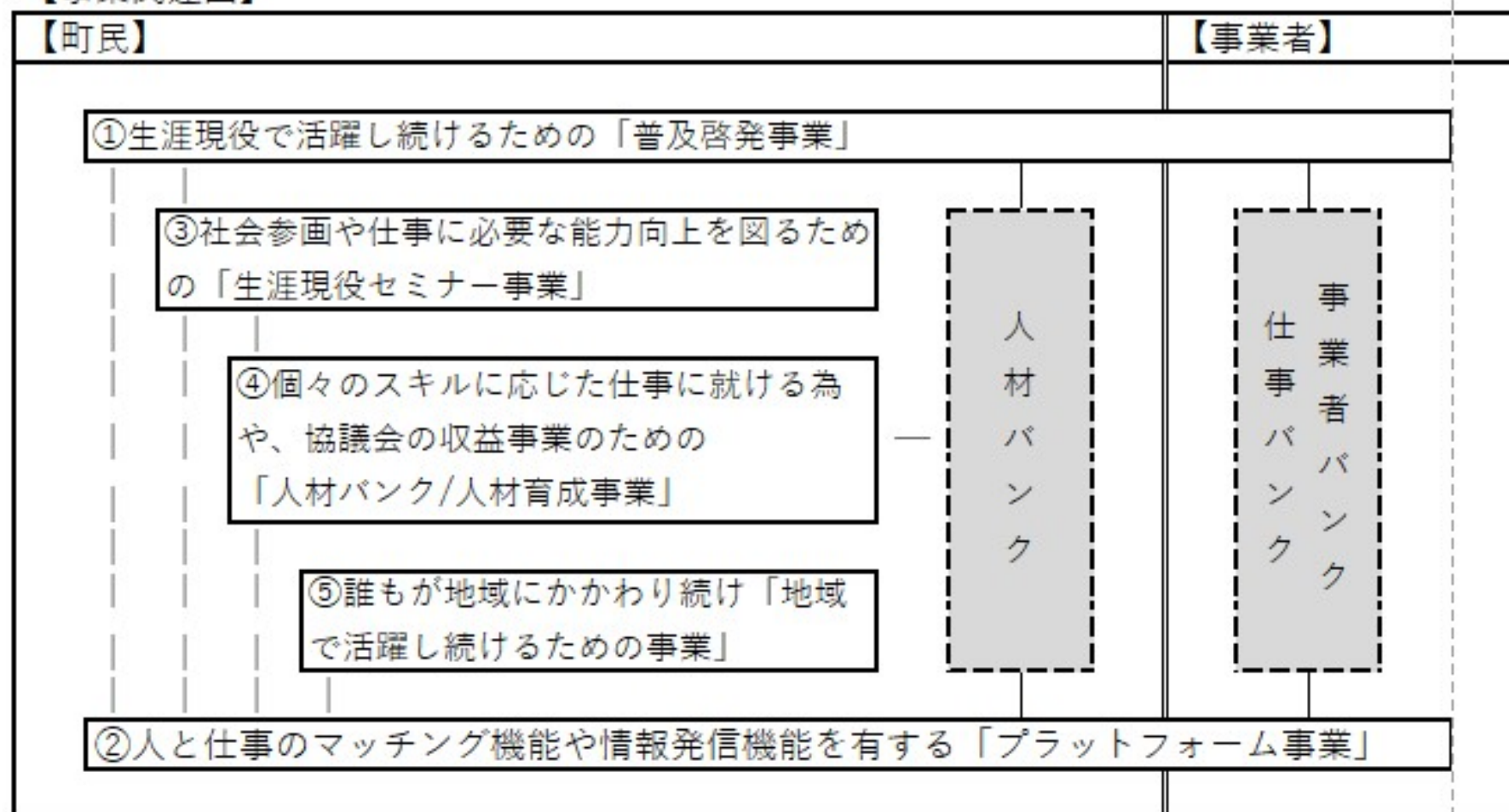
事業の概要

■ 事業目的と概要



事業の概要

【事業関連図】



事業の概要

■2022年度活動スケジュール

事業		2022年度								2023年度
活動(要領キーワード)	作業	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①生活現況で活かし続けるための「普及啓発事業」										
周知活動	「環境監視事業」紹介資料作成(チラシ/説明会用紙) 継続的広報以外(下記)と活用検討(目的/情報提供/発信時期の把握) 広報誌の発行 HP開設(WEB版支援システム) LINE開設 facebook開設		チラシ作成 広報媒体の検討							
事業参加者の推進	・モデル事業者抽出と提案(チラシ活用による出張訪問) ・モデル事業者登録(申請書の登録) ・モデル事業者へ仕事情報の登録方法や運用の説明・登録 ・モデル町長(リーダー/地区/個人)の抽出と事業紹介 ・研修HP/facebook/研修紹介資料で紹介		提出 Ⅱ ※：ワーキングホリデー登録事業者	開設 開設		提出/申請 登録				
その他		提出 Ⅲ	※前期生創業者のフォロー			*1	*2 一般/高齢者向け紹介(n国)			
②人と仕事のマッチング機能や情報発信機能を有する「プラットフォーム事業」										
窓口開所と相談対応	・文庫サイト開発 ・マッチング相談窓口の開設(サービス/場所/時間/時間)	要件整備 Ⅱ	開発	検証						
③社会や画や仕事に必要な能力向上を図るための「生涯現役セミナー事業」										
生涯現役セミナー企画開催	・モデル町長(専断者)を対象としたセミナー企画/開催		*3 セミナー企画			*2 スマホ/LINE活用セミナー				
④個々のスキルに応じた仕事に就けるため、協議会の収益事業のための「人材バンク/人材育成事業」										
経歴の法人化	・事業主体の法人化準備(「新」となミズビと経済産業局連携協議会)		法人化							
人材バンク登録推進	・モデル町長(地区/人)への人材情報登録方法・登録					*2 登録				
研修会企画開催	・人材バンク登録者を対象とした研修会の企画/開催		*2 研修会企画			*2 スマホ/LINE活用セミナー				
⑤誰もが地域にかかわり続け「地域で活躍し続けるための事業」										
仕事のコーディネート (7-73ページ2の確保)	基幹型案件団体作業(仕事)の調査/実施 基幹型案件団体作業(仕事)の企画(ワークスペース/交通手段等)/開催					*1 仕事の調査/実行一仕事登録(後援)				
乗取訓練	・行政からの乗取訓練と雇用(研修施設/現地案内/企業見学/上向き住宅管理/定額バンク/農地バンク)						団体作業の企画開催			
新規事業創出	・本事業及び町の課題から新規事業の創出(アイデアシェア/選挙バス/ボランティアバンク) ※ワーキングサービスの一括受注 町(人/事業者/文科/資源)のシーズ 町長(福祉系/関係人口/関係人口)のニーズ					*1 現場参事業家の依頼				

事業の概要

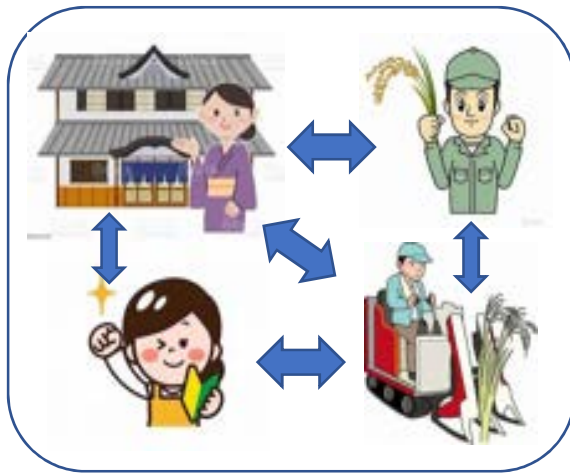
どんなところ？

まちの人事部

南伊豆町が始めた「まちの人事部」の仕組みと役割をお教えします！

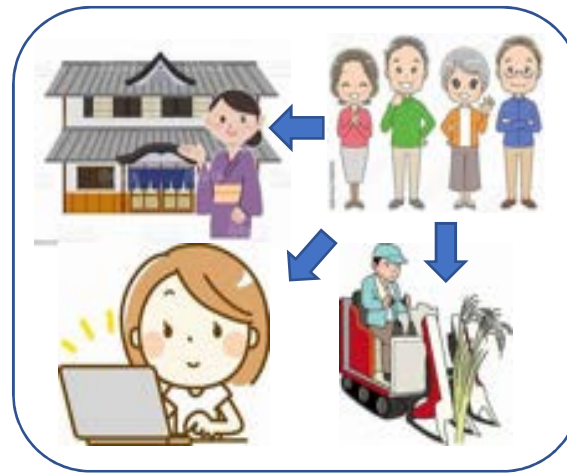
なにができる
の？

まちの人事部の3つの役割をご紹介します。



仕事と人を繋げます

(マッチング・プラットフォーム)



人事部がお手伝いします
(人材バンク・人材派遣)



みんながかかわります
(手仕事請負・小商い)

まちの人事部は地域の皆様に次のような価値を提供します。

地域の事業者さまに…

- ☒ 雇用のお手伝いや人手のマッチングをします
- ☒ 人手を派遣します
- ☒ ちょっとしたお仕事を請け負います

地域のみなさまに…

- ☒ 仕事や仕事情報を紹介します
- ☒ 仕事を提供します
- ☒ 知識や仲間が増えます

事業の概要

「まちの人事部」ご利用メリット

お仕事探しに関するお悩みを解決します！

- ★「まちの人事部」ひとつでお仕事を探せます！
- ★1日のみ、半日、週2回などの
仕事もごございます
- ★空き時間で働けます！
- ★作業から事務まで幅広くご用意いたします
- ★社会貢献になります！

お勤め先が町の事業者なので

- ★ 安心感あります！
- ★ 通勤が便利！
- ★ 町民同士の
つながりが深まります！

様々な経験を持った
「まちの人事部」スタッフ



事業の概要

人材サービスご利用にあたりまして

◆スタッフ登録のお願い

プラットフォーム利用にあたり、はじめにスタッフ登録が必要となります。

登録時間はおよそ3分です。

ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

LINEお友達登録へ



事業の概要 (これまでの取組)

9/15チラシ回
覧 (事前情報)

町が関わる
ので“安心”

南伊豆町「**まちの人事部**」始まります。

仕事を頼みたい
事業者さんと、仕事を
探している人をお
つなぎします

仕事をしたい・
探したい人は…

主婦の方・中高年
の方も大歓迎です
リタイヤした方
のお小遣い稼ぎにも

地域とのつながり
を作りたい方、
自分のスキルを
活かして活動したい
方なども

ちょっと
人手がほしいけど、
ハローワークで求人
までは…。
という事業者さんも

ちょっとした
作業をお願いしたい
という事業者さんも、
テレワークで事務処理
をお願いしたい
事業者さんも

登録者を募集します

- ・ 仕事をお願いしたい事業者さん
「急な人手が必要」「短時間だけ、1日だけお願いしたい」
「単純な作業をお願いしたい」…なども
- ・ 仕事をしたい・仕事を探したい人
「これまでのスキルを活かしたい」「週に1日だけ」「子ども
がいるので短時間なら」「お手伝いくらいはできる」…なども

しばらく仕事から遠ざかっていても、お子様がいても大丈夫。

ご興味がある方は
お気軽にお電話ください。

ミナミイズ人と経済活性化推進協議会
南伊豆町下賀茂315-1 南伊豆町企画課地方創生室内
電話 62-1121 (担当: 渡辺・山口)

LINE公式アカウ
ント取得
「まちの人事部」

事業の概要（これまでの取組）

9月 ワークスペース 1 か所



事業の概要（これまでの取組）

11/17～ 町内ストベリーグアバ農園のお仕事紹介（7名程度）



事業の概要（これまでの取組）

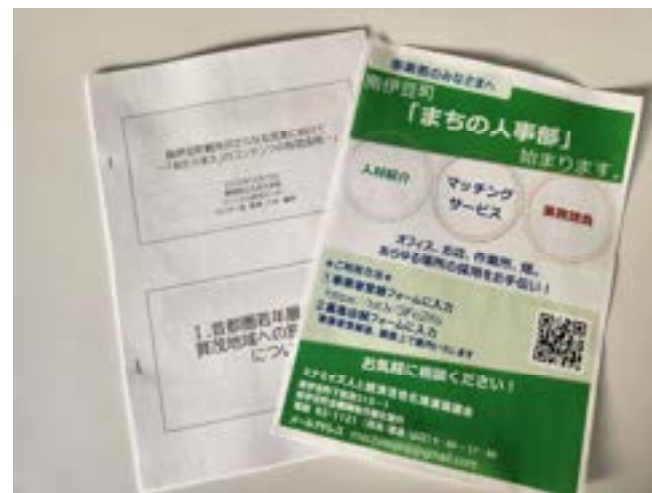
各種案内作成及び訪問説明スタート



事業の概要（これまでの取組）

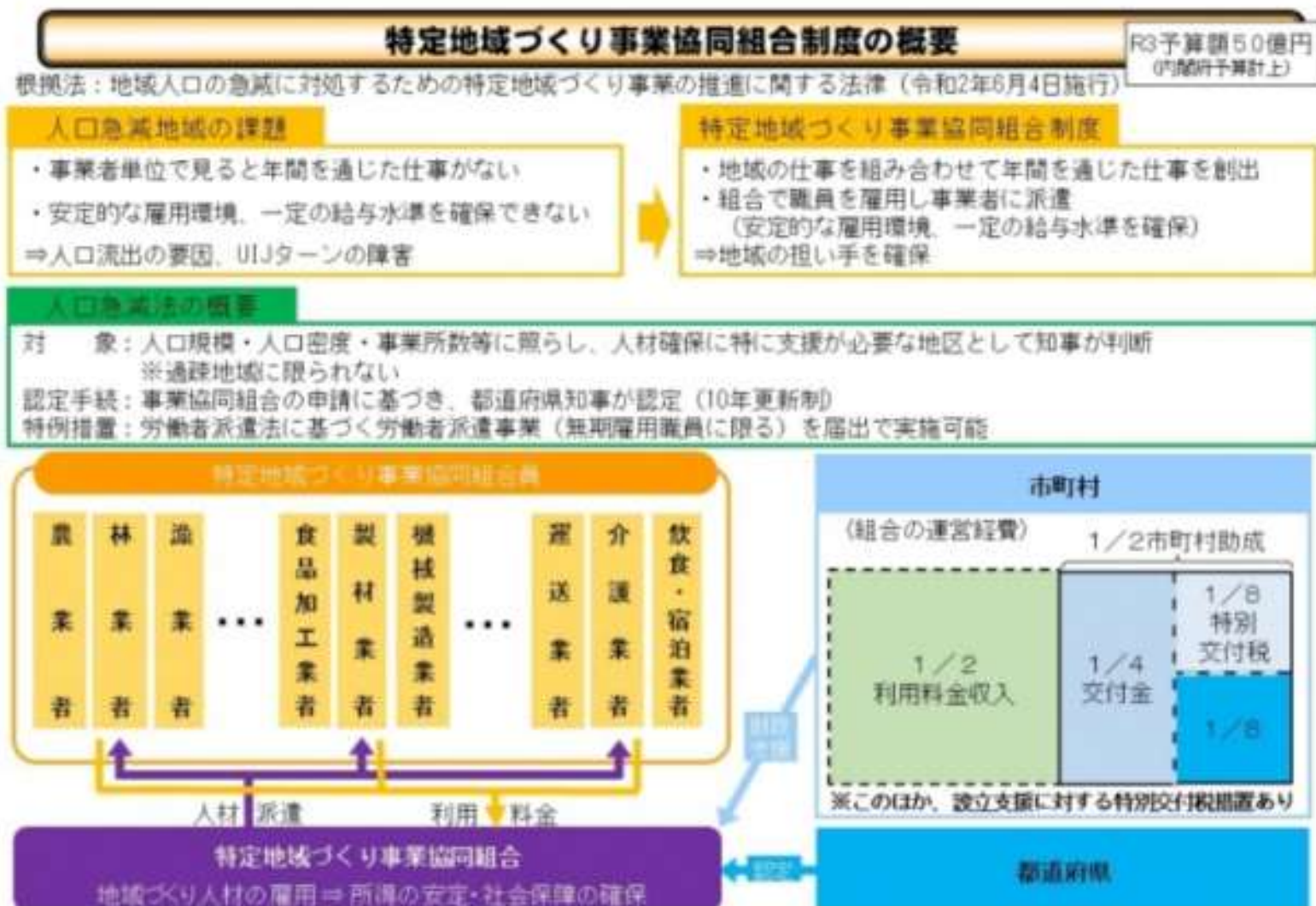
各種案内作成及び訪問説明スタート

- ・ 事業者訪問説明
- ・ 住民グループの集まりの場での説明 など



町産業団体連絡会（商工会）主催の事業者向け講演会での事業説明（12/15）

継続的な事業運営について



継続的な事業運営について

地域プロジェクトマネージャーの創設

※令和3年度より

- 地方公共団体が重要プロジェクトを実施する際には、外部専門人材、地域、行政、民間などが連携して取り組むことが不可欠だが、そうした関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメントできる「ブリッジ人材」が不足。そこで、市町村がそうした人材を「地域プロジェクトマネージャー」として任用する制度を創設。

イメージ

★ブリッジ人材が不在だと...

- ・コミュニケーション不足から混乱が生じ、関係者がお互いに不信感



- ・せっかく外部専門人材を招へいできて孤立



⇒プロジェクトの実力があがらない状態に

★地域プロマネ任用により...

- ・多様な関係者間を調整、橋渡し



- ・チームとしてプロジェクトを推進



⇒プロジェクトを着実に成果へつなげる！

制度概要

★人物像

- ・地域の実情の理解、専門的な知識、仕事経験を通じた人脈、受入団体及び地域との信頼関係 etc
- ⇒地域おこし協力隊OB・OG、地域と関係の深い専門家 等

★地方財政措置

- ・地域プロジェクトマネージャーの雇用に要する経費を対象に、650万円/人を上限に特別交付税措置
- ・1市町村あたり1人、1人あたり3年間を上限

★地域要件

- ・3大都市圏内又は3大都市圏外都市地域から、条件不利地域へ住民票を異動（地域おこし協力隊と同様）
- ・ただし、現地の協力隊から任用される場合には移住は求めない

